

## 事例34 介護中、犬に噛まれる

### 1 災害の概要

項目	内容
介護労働者	経験6ヶ月、30歳代
作業	掃除作業
災害の型	その他
起因物	室内犬
傷病	噛まれ傷
災害の程度	3週間の休業災害



### 2 発生状況

介護労働者が、利用者宅の床を掃除していたとき、室内犬が寄ってきて、突然、鼻、上唇をかまれた。

### 3 原因

- (1) 家族からの室内犬に関する情報を受けていなかった。
- (2) 室内犬に対して注意せずに、同室で作業を行った。

### 4 対策

#### (1) 事業者

- ① 室内犬等のペットに関する情報を、事前に介護労働者に提供する。
- ② 介護作業については、ペットと同室で作業しないよう教育する。
- ③ 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

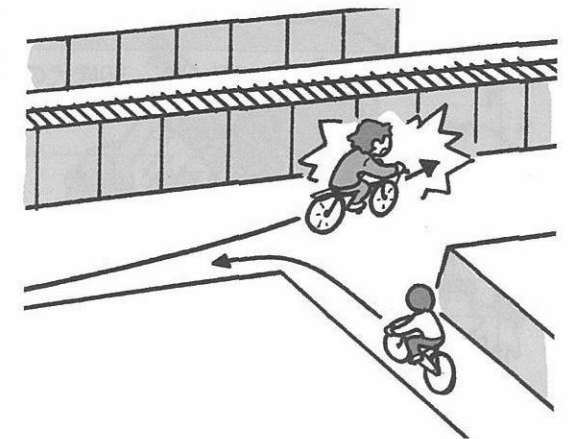
#### (2) 介護労働者

- ① 介護作業については、ペットがいない部屋で行い、扉を閉め、ペットがむやみに介護作業スペースに入らないようにする。やむを得ず、ペット類と同室で作業をする場合は、つなぎ止めるようお願いする。
- ② ペット類が寄ってきたときは、相手にせず避ける。

## 事例35 自転車で走行中、飛び出しを避けガードレールに衝突

### 1 災害の概要

項目	内容
介護労働者	経験2年、60歳代の女性
作業	通勤途上
災害の型	交通事故（道路）
起因物	フェンス
傷病	左手の関節捻挫
災害の程度	2週間の休業災害



### 2 発生状況

介護労働者が、利用者宅に向かうため自転車で道路を直進中、側道右側より自転車が飛び出してきたため、あわてて、左側へ避けたが運転のバランスを崩し、道路沿いに設置してあるフェンスに衝突し転倒した。その際、地面に左手を強くつき、左手関節を捻挫した。

### 3 原因

- (1) 直進道路のため、優先して通行できる意識が強く、側道からの飛び出しに気付くことが遅れた。
- (2) 介護用の荷物が多く、前かごに乗せており、ハンドルを急にきるとバランスを崩しやすかった。
- (3) 見晴らしがよい道路で、通行量も少ないためスピードを出しており、また、ブレーキのききが甘く、フェンスにぶつかった。

### 4 対策

#### (1) 事業者

- ① 交通災害が起こりやすい場所等を書き込んだヒヤリハットマップを作成し、提供する。
- ② 交通安全教育を定期的実施する。
- ③ 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

#### (2) 介護労働者

- ① 荷物の整理整頓に努め、できるだけ荷物を軽くし、かつ、自転車の後ろの荷台に載せるようにする。
- ② 交差点では、常に、飛び出しの予知を働かせて、減速し運転する。
- ③ 「～だろう。（車が来ないだろう。）」運転をやめ、「～かもしれない。（車が来るかもしれない。）」運転をする。